



コロナのデマ 犯人はお前だ！

新型コロナウイルスの感染拡大の陰で、インターネット上には多くのコロナ関連のデマやフェイクニュースが飛び交い、社会を混乱させた。偽情報にどう対処するべきか。

「納豆が効果」「漂白剤飲む」偽情報次々

総務省が昨年5月に実施したネット利用者調査からは、多様な偽情報が広まり、信じられたことがわかる。

コロナ予防法では、「こまめに水を飲む」に効果があると信じたのは回答者の28.7%。「ニンニクを食べる」は14.8%、「納豆を食べる」が9.6%だ。「漂白剤を飲む」という危険なうそも3.1%が信じた。

東京都内の女性(63)も偽情報を信じた一人だ。昨年2月、親戚から無料通信アプリLINEのメッセージを受け取った。

「ウイルスは耐熱性がなく36、37度の温度で死滅します。多くのお湯を飲んでください」。女性は知人ら約15人に転送したが、直後にうそだと判明した。女性は取材に「つい信用してしまった」と悔

やむ。

英国では電波が感染拡大の原因とのフェイクニュースが出回り、通信設備が放火される事件が相次いだ。イランでは、燃料用アルコールを飲むと予防効果があるというデマを信じ、500人以上が中毒死したと報じられた。

SNSがウソ拡散

ネット上の明らかな偽情報まで信じさせ、短期間で多くの人に拡散させた「主犯」は、SNSだろう。

SNSには、考えの似た者同士が集まりやすく、同じような情報に繰り返し触れやすい。検索履歴などから自分好みの情報ばかり届く作用もある。日頃から心地よい似た情報に慣らされ、情報を疑うことが減るようだ。



「まずは無視」最善

専門家は異口同音に、新聞・テレビなど複数の情報源に当たるようアドバイスしている。ただ、総務省調査では、情報の真偽が不明と知ったうえで、「興味深かった」(32.7%)、「他人に役立つ情報だと思った」(22.7%)などの理由で、偽情報を広めてしまったとの回答が目立った。情報共有が簡単なSNSの世界では、「おもしろそうな情報は、反射的に他人と共有する人」が多いようだ。

中央大の松田美佐教授(コミュニケーション論)は、「放置するのが一つの手。よかれと思って広めたとしても、偽情報なら免罪符にはならない」と指摘する。

ネットで情報源が不明の不確かな情報に出会ったら——。「まずは無視して放置しよう」

誰もが偽情報の「共犯」になりうるSNS時代。これを新しいネットのマナーとしてはどうだろうか。



考えの似たもの同士が集まりやすく、同じような情報に繰り返し触れやすい、などの特徴が拡散の原因のようです。

1 記事では「デマ」を多くの人に信じ込ませた「主犯」は何だと説明していますか。3文字で抜き出しましょう。

S N S

2 記事では日本で出回った「デマ」だけでなく、海外で信じられた「デマ」も紹介しています。これらを紹介するとどのような効果がありますか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 日本人が「デマ」を信じやすい国民であることを知ってもらう効果がある。
- ② 危険な「デマ」を信じない日本人は、海外の人と比べて賢いということを知ってもらう効果がある。
- ③ 「デマ」を信じてしまうことは日本の国内だけの問題ではないことを知ってもらう効果がある。
- ④ 日本よりも海外の方が「デマ」が多いということを知ってもらう効果がある。

③

3 「誰もが偽情報の『共犯』になりうるSNS時代」とありますが、これはどういうことですか。説明として最も適切なものを選び、番号で答えましょう

- ① 不確かな情報でも、おもしろければ誰かと共有しようという人が多い時代。
- ② 多くの人が、SNSの情報を無視して放置する時代。
- ③ 日頃から心地よい似た情報に慣れており、自分の考えとは違う情報を疑う人が多い時代。
- ④ どんな危険な偽情報でも、すべて信じてしまう人が多い時代。

①

デマにだまされているのは、日本人だけではありません。各国で様々なデマが信じられているのは、深刻な問題ですね。

おもしろいからといって拡散してしまうのは、デマを広める「共犯」だと、記事では指摘しています。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

×「観光客減でシカ飢えている」

奈良公園で鹿せんべいを与えられるシカ。せんべいがないくても、食べ物に困ることはないという（5日、奈良市で）



奈良公園 保護団体「食料は十分」

保護団体「奈良の鹿愛護会」によると、公園には約1300頭が生息。以前から菓子などを与える人はおり、愛護会が注意喚起していたが、今年9月以降、愛護会や奈良県に対し、土産物店などから「車からパンの耳をはらいまいてる」「夜に残飯をあげている」といった通報が急増した。同じ人が何度も来て、餌をやる姿も目撃されている。

周辺では、新型コロナウイルスの感染拡大で訪日観

光客の減少でせんべいももらえず、激やせしている。奈良公園（奈良市）のシカを巡り、ネット上でそんな誤った情報が拡散し、菓子などを与える人が相次いでいる。シカは添加物などが入った物を食べると病気になる恐れがあり、保護団体は「十分な食料があるのでやめてほしい」と注意を呼びかける。（前川和弘）

加工品与え
4日夜、奈良公園内の道で男女3人が大きな紙袋からペットフードを取り出し、約20頭のシカが群がって食べていた。

「シカがやせていると聞いたので、たまに来ていた」と、一人の女性は話した。記者が「体に良くない」と伝えても、「よく食べるよ」と聞く耳を持たず、3人は餌を与え続けた。

シカは草食動物で、主食は草や木の葉。1頭が食べる量は1日4キほどで、観光客が与える「鹿せんべい」はおやつ程度だという。鹿せんべいは、消化しやすいように主に米ぬかで作られているが、それ以外の加工食品は下痢や嘔吐などの体調不良につながる。特に味付けで香辛料が使われている物は、影響が出やすい。

（2020年11月6日 読売新聞大阪夕刊より）

多くの人が信じてしまう「偽情報」はたくさんあります。

どうしたら気づくことができると思いますか。





学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握	精査・解釈		
		ア	イ	ウ	エ
設 問	1	○			
	2				○
	3	○			